

ボランティア企画の実施報告書(本学主催のみ)

企画名称 (講演タイトル)	東洋大学ボランティア WEEK 子どもの権利実現のために自分たちにできることを考える ～国連・子どもの権利条約とSDGsの視点から～
講師	出野 恵子氏 (認定 NPO 法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン 副代表理事・ファシリテーター)
開催期間・日時	2020年12月7日(月) 13:00～14:30
会 場	zoom での配信授業
目 的	国連・子どもの権利条約と SDGs の理念、子どもの権利の視点を踏まえた子ども支援のさまざまな場面における子どもへのまなざしや子どもへの接し方について、専門家の方を迎えて学生とともに考える
参加者数	95名 ※主な内訳は、以下の通り。 【内訳】学生 86名、他学部学生 6名
協 力	ライフデザイン学部の専門科目「教育制度論」(担当:内田塔子先生)と連携して実施
活動内容(概要)	
<p>国内外の子どもの貧困や差別の解消のために取り組んでこられた認定 NPO 法人「フリー・ザ・チルドレン・ジャパン」の副代表理事の出野恵子氏をお招きし、「子どもの権利実現のために自分たちにできることを考える ～国連・子どもの権利条約と SDGs の視点から～」というテーマで講義をいただいた。</p> <p>最初に、講師の経歴および「この道」に進むきっかけとして、教員を目指していた講師が「フリー・ザ・チルドレン・ジャパン」にかかわりを持っていくきっかけをお話ししていただいた。</p> <p>続いて、「人権の歴史」を通して、「子どもの権利条約の」採択から日本での取り組みについて紹介をしながら、子どもを「保護される対象」から、「権利の主体」へと捉える子ども観への転換が行われた経緯について説明があった。</p> <p>ワーク1では、「子どもの権利が守られていなかったと思われる場面」を学生自身の過去を振り返りシェアを行うことで、「権利」について考えた。</p> <p>次に当団体に関する説明が行われ、12歳の少年が立ち上げ子どもたちが「主体」となって活動を行ってきた歴史について説明があった。</p> <p>また、「SDGs」とのかかわりについて、子供たちが「どのように目標に向かって活動をしているのか」事例を交えて紹介され、デモ・学校での活動・SNS・演劇を用いた活動など、それぞれの子どもたちが「得意なもの」を生かして活動をし、まずは「自分でできること」から始められることが説明された。</p> <p>さらに、「フリー・ザ・チルドレン・ジャパン」の運営方法について、「子どもが運営に参加」「大人にも会の運営について理解をしてもらう(書面にサイン)」「子どもたちが自らアクションを行えるよう導く」という点を意識して活動を行っているという説明を受けた。</p> <p>最後にワーク2では、「子どもをサポートしよう」と題して、傾聴力・質問力を身に着ける方法について、説明を受けた。</p> <p>受講者の声としては、「今まで保育者になりたいと思っていたけど、子どもとかかわる職業は他にも多くの選択肢があることが分かったため、もっと視野を広く持って大学生生活を過ごしたいと思った。」「子どもの権利はどうい</p>	

ボランティア企画の実施報告書(本学主催のみ)

うものなのか、改めて理解できた。」「子どもの権利条約と自分の子ども時代の体験を合わせて考えることで子どもの権利が守られていた経験と守られていなかった経験についてよく考えることができました。」「子どもの権利条約と自分の子ども時代の体験を合わせて考えることで子どもの権利が守られていた経験と守られていなかった経験についてよく考えることができました。」…

という感想が多く寄せられた。

※写真があれば数枚を添付。但し、HP や広報誌に掲載する場合があるため、被写体の了解を得るなど、掲載可能な写真を提出してください。